

## 【認知症とはどんな内容なの？（５）】



前回に引き続き認知症の説明をします。

⑩「アルツハイマー型認知症」と「脳血管性後遺症」のほかに認知症の症状が起こる主なものは次のとおりです。

「ピック病」

特有な人格変化、反社会的行動、反道徳的行動を主症状とし、それに認知症が次第に加わっていきます。

「レビー小体病」

幻視（ないはずの小動物が生き生きと見えるなど）、転びやすい。パーキンソン病と同様の歩行障害や認知症を伴うものです。

「パーキンソン病」

動作が緩慢、手足の震え（振戦）、筋肉の萎縮がみられる。初期には認知症はみられませんが、後期にはみられることもあります。

「慢性硬膜下血腫」

頭を打撲した後、脳を包む硬膜の下に出血がおき、脳が圧迫されて起こる病気です。１ヶ月ぐらいしてから、頭痛、不全片麻痺、歩行障害、認知症などがみられます。

「正常圧水頭症」

認知症、歩行障害、尿失禁を特徴とします。髄液圧は正常であるが髄液の吸収障害のため脳室が拡大します。

「脳腫瘍」

脳の中に細菌感染がおこり、膿がたまった状態です。頭痛、発熱、全体倦怠感などが一般症状です。

「脳炎・髄膜炎」

細菌やウイルスなどによって脳や脊髄を包んでいる組織（髄膜）が破壊されることによっておこる病気です。頭痛、発熱、意識障害などがおこります。

「クロイツフェルト・ヤコブ病」

蛋白質（プリオン）が異常な蛋白質に変化して発症します。急速に進行する認知症、不随意運動、四肢麻痺などが特徴です。

「エイズ脳症」

H I V（ヒト免疫不全ウイルス）感染末期、最終段階で発症する脳症です。大脳白質、深部灰白質（かいはくしつ）に病変があり、血管の周囲を中心に炎症細胞の浸潤（しんじゅん）がみられるH I V脳炎と、髄鞘（ずいしょう）、

軸索(じくさく)の脱落があるH I V白質脳症が主にみられます。

#### 「アルコール脳症」

過度の飲酒を繰り返すことで、アルコール依存になり、神経障害があらわれます。

#### 「甲状腺機能低下症」

種々の原因により、甲状腺ホルモン分泌が低下した状態で、無気力、易疲労感、かすれ声、皮膚の乾燥などの症状があらわれます。放置すると認知症や精神・神経症状があらわれることもあります。

#### 「進行性多巣性白質脳症（PML）」

主に大脳白質（大脳皮質の髄鞘に覆われている神経細胞の走行するところ）の髄鞘があちこちで破壊される病気です。免疫機能異常と関係して発症することが多いです。視力障害、構音障害、認知症などがあらわれます。

#### 「進行麻痺」

長い年月、体内に潜伏していた梅毒スピロヘータが脳を侵して発症する慢性脳炎です。認知症症状と手足の痙攣、体の麻痺がおこります。

#### 「頭部外傷後遺症」

転ぶなどして頭を強く打ち命をとりとめても残る様々な障害で、麻痺や言語障害、認知症などがあらわれます。

#### 「多発性硬化症」

中枢神経系の脱髄疾患（髄鞘がこわれる）のひとつです。脱髄斑があちこちにでき、病気の再発を繰り返します。視力低下、四肢の麻痺、しびれなどが主な症状です。

#### 「ハンチントン舞踏病」

性格変化を主とする精神障害と舞踏様不随意運動（特に顔面、手足など）があらわれます。大脳の萎縮、脳室の拡大、神経細胞の障害などが認められます。

#### 「ALS様症状を伴う認知症」

ALSは「筋萎縮性側索硬化症」で、運動神経の細胞が消失していき運動機能障害をおこす病気です。まれだが認知症を伴うタイプがあります。

#### 「大脳皮質基底核変性症」

前頭・頭頂葉の皮質及び皮質下諸核の神経細胞が侵されます。認知症の他に失行、パーキンソン症状、眼球運動障害などがみられます。